

糸魚川駅北大火避難行動調査

Laboratory of Urban Information & Safety
The University of Tokyo



糸魚川駅北大火 避難行動調査

東京大学大学院工学系研究科 廣井研究室
日本火災学会 地震火災専門委員会
日本ミクニア

2017年4月10日(月)

糸魚川大火における避難行動調査(速報) ①



東京大学



3

調査の概要

- 調査主体は東京大学廣井研究室、日本火災学会/地震火災専門委員会、日本ミクニア。なお調査票作成には東京大学関谷直也准教授にも協力いただいた。
- 調査時期は2017年3月から4月。現在も少しずつ郵送調査票を返信いただいているので、速報扱い。
- 調査対象は避難勧告対象の全世帯(363世帯)に対面調査＋不在宅にポスティングを行った。ただし仮住まい居住者は個人情報の関係で郵送調査。現在、139サンプル回収。原則世帯調査で、世帯内で違う避難行動をした人がいたら追加で尋ねている(が、その数はそんなに多くはないです)。
- 内訳は本町26件、大町1丁目19件、大町2丁目35件(以上対面調査)、郵送59件。郵送は、現段階では焼失地域とポスティングが混ざっています。
- その他については、現在集計中。

糸魚川大火における避難行動調査(速報) ②



東京大学

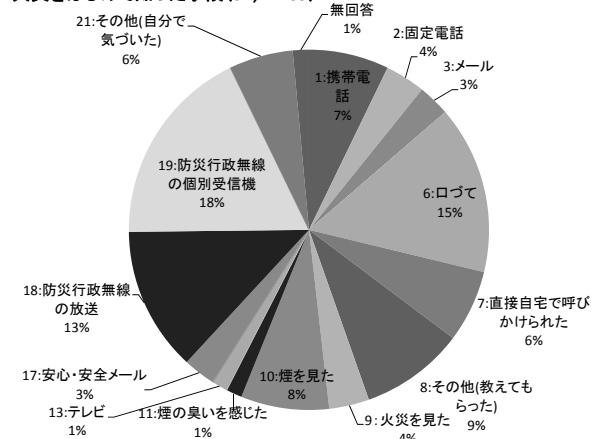


4

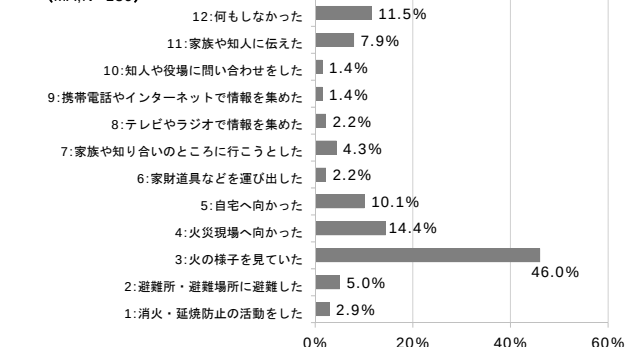
火災を知ったきっかけと、直後の行動

- 火災をはじめて知ったきっかけは、防災行政無線、口づて、煙を見た、携帯電話の順番が多い。全体のうち約半分が自分で気づいている。
- 火災を知ったとき、火災の規模は火元から煙が出ていたと回答した人が約半分。防災行政無線(戸別受信機＋放送)のおかげで、火災の周知は比較的早期に行えたようである。
- 火災を知った直後の行動は、火の様子を見ていたが約5割が多い。火災現場へ向かったは約15%、何もしなかったが約12%、避難所・避難場所への移動は約5%、消火・延焼防止活動は約3%。これは早期に覚知しているからかも。

火災をはじめて知った手段(SA,N=139)



火災を知った直後の行動(MA,N=139)

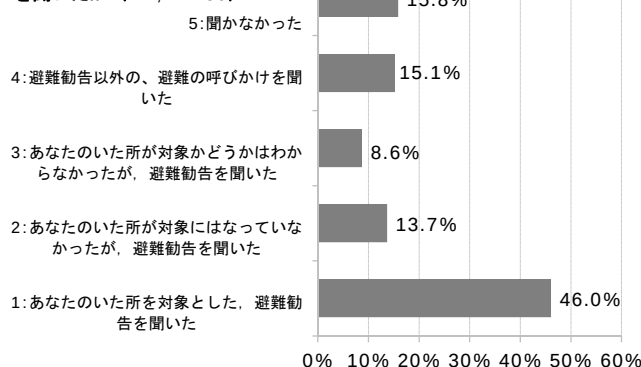


糸魚川大火における避難行動調査(速報) ③

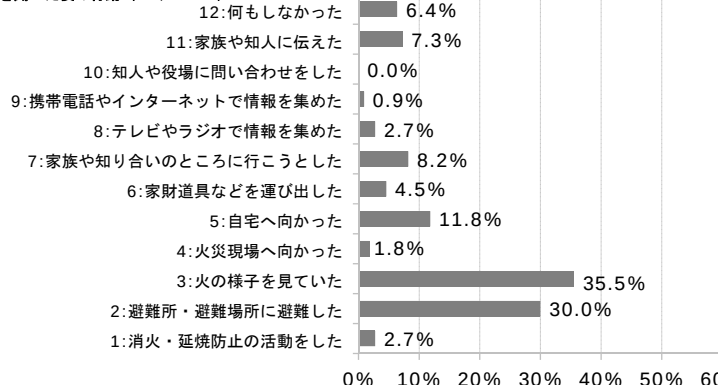
避難に関する情報を聞いたか、その後何をしたか

- 自分のいたところを対象とした避難勧告を聞いたとの回答は約46%で、避難勧告も避難の呼びかけも聞かなかったと答えている人は約16%
- 避難に関する情報を聞いた直後の行動は、火の様子を見ていたが約36%、何もなかったが約6%。避難所・避難場所に行ったは全体で約30%と低い、これは地域によって大きく異なり、本町は約半数が避難所・避難場所に行ったと回答してるが、大町1丁目は0%、大町2丁目は17%とすごく低い
- 避難勧告や避難の呼びかけが出て、直後に避難していないことが分かる。

避難勧告や避難の呼びかけを聞いたか (MA,N=139)



避難勧告や避難の呼びかけを聞いた後の行動 (MA,N=110)

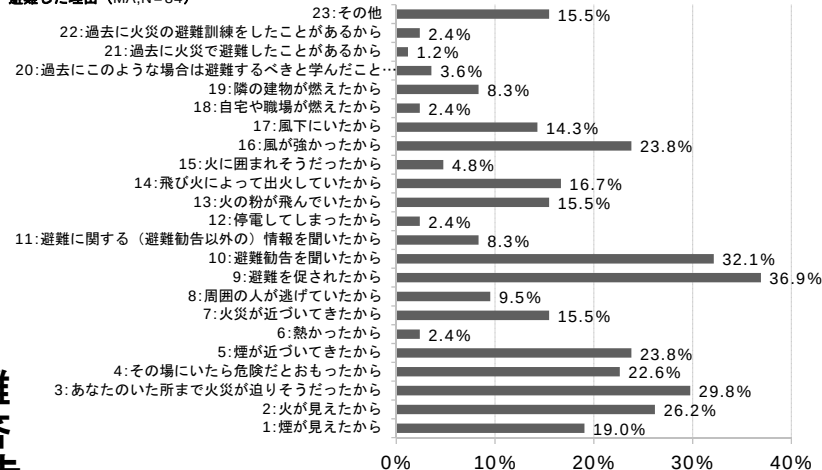


糸魚川大火における避難行動調査(速報) ④

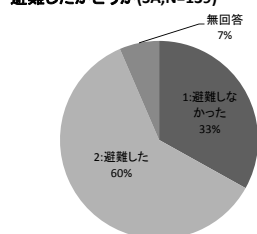
避難したかどうか、避難した理由、火災からの距離

- 33%が避難していない。
- 避難した理由は、避難を促された、避難に関する情報を聞いた、火災が迫りそうだった、火が見えた、風が強いと思った等。火に囲まれそうだったからは5%
- 避難時の火災からの距離は、わからない+無回答を除き、約半数が100m未満。ぎりぎりまで逃げてない傾向は、酒田大火と同じ。

避難した理由 (MA,N=84)



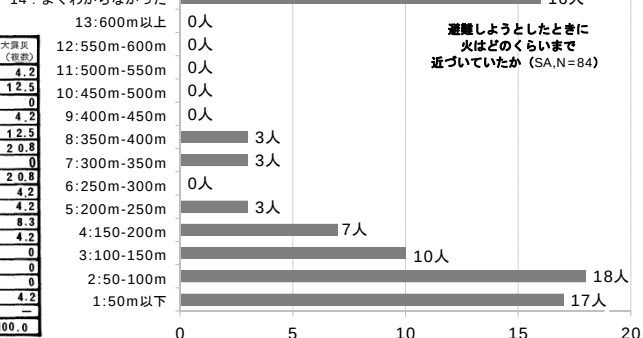
避難したかどうか(SA,N=139)



熊谷ら(1983)による酒田大火時の避難距離

項目	酒田大火	酒田大火時一次(概数)	酒田大火時二次(概数)
0m-50	31.0	12.5	4.2
50-100	20.6	8.3	12.5
100-150	21.0	12.5	0
150-200	10.0	20.8	4.2
200-250	7.7	16.7	12.5
250-300	4.1	0	20.8
300-350	1.8	8.3	0
350-400	1.2	0	20.8
400-450	1.1	4.2	4.2
450-500	0.3	8.3	4.2
500-550	0.8	4.2	8.3
550-600	0.3	0	4.2
600-650	0	0	0
650-700	0.3	0	0
700-750	—	0	0
750-800	—	0	4.2
800-850	—	4.2	—
合計	100.0	100.0	100.0

14: よくわからなかった



避難しようとしたときに火はどのくらいまで近づいていたか (SA,N=84)

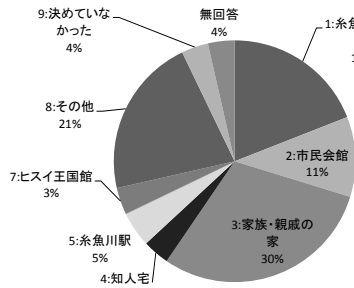
糸魚川大火における避難行動調査(速報) ⑤



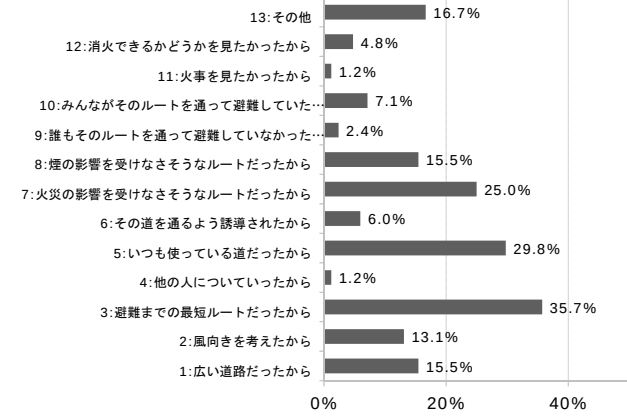
■ 避難場所やその選定理由、避難ルートの選定理由

- 最初に避難しようとしたところは、家族・親戚の家が30%で、公民館19%、市民会館11%。
- その避難場所を選定した理由は、遠いので安全だと思ったが約35%、その場所に行くよう促されたが約27%くらい、風上だったが約21%くらい。
- 避難ルートは最短だから、いつも使っている道だからなど

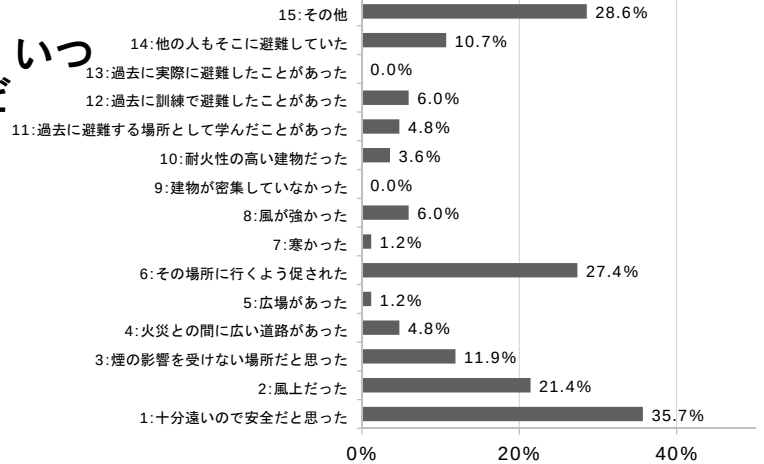
最初に避難しようとした場所 (SA, N=84)



避難ルートの選定理由 (MA, N=84)



その場所に避難した理由 (MA, N=84)



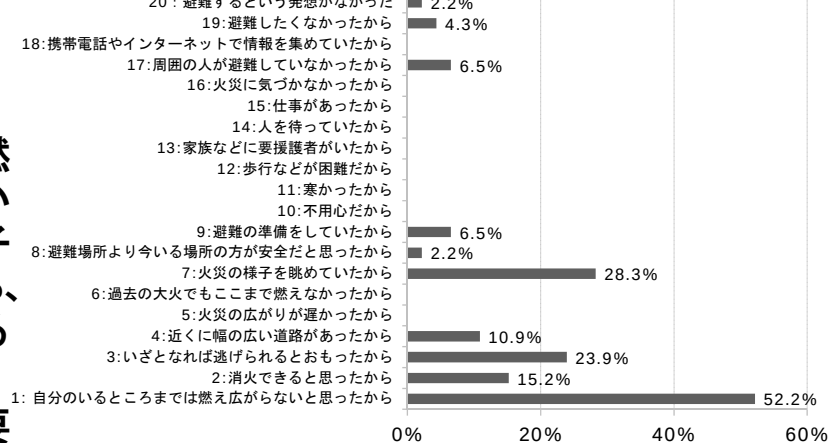
糸魚川大火における避難行動調査(速報) ⑥



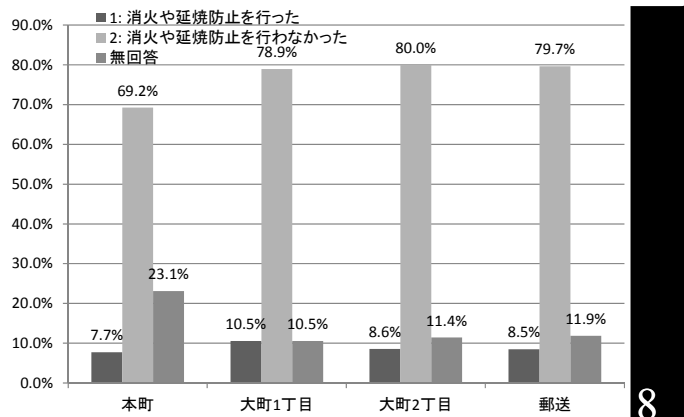
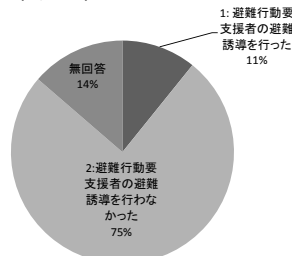
■ 避難しなかった理由やその他活動

- 避難しなかった理由は、自分のいるところまで燃え広がらないと思ったからが約半数、火災の様子を眺めていたから約28%、いざとなれば逃げられると思ったから約24%。
- 消火・延焼防止活動や要援護者の避難誘導は1割くらいが行っている。

避難しなかった理由 (MA, N=46)

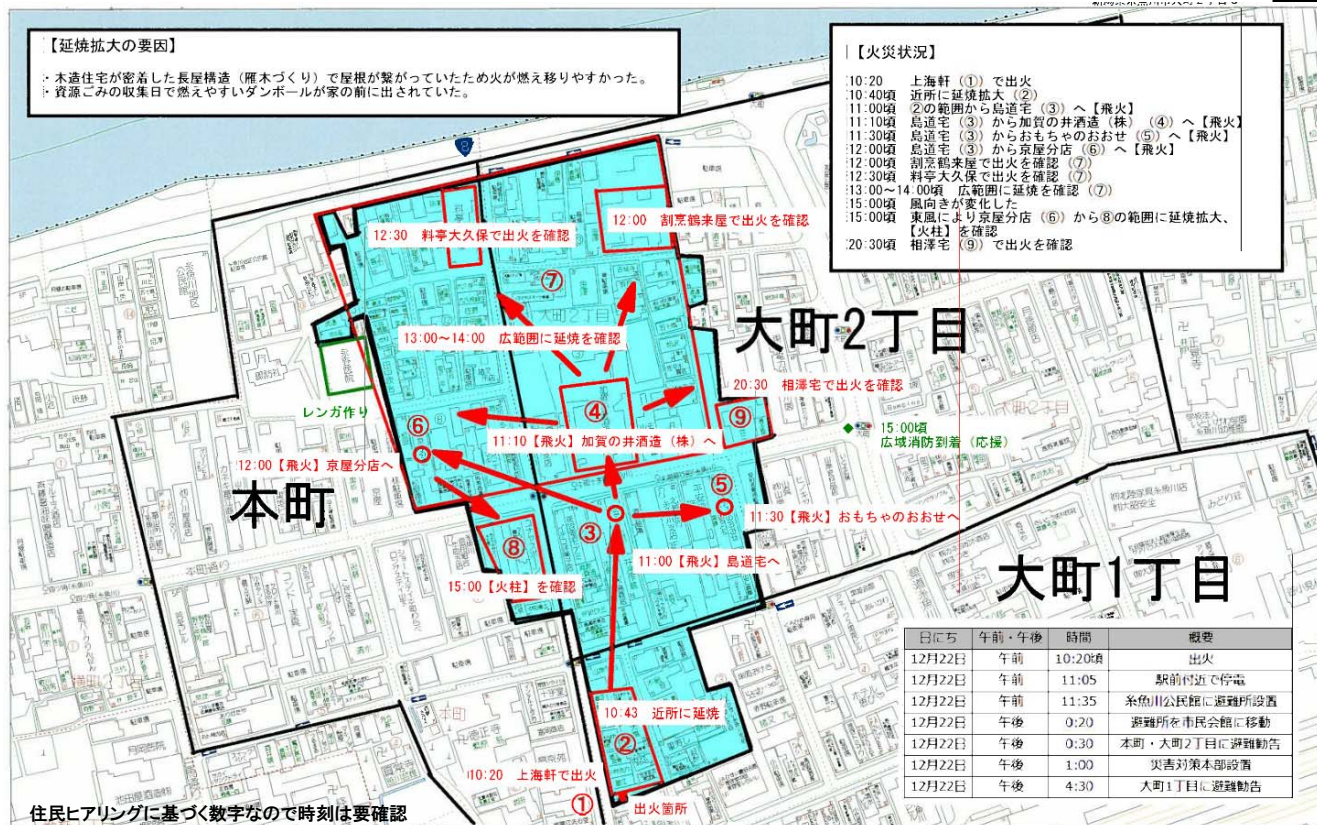


避難行動要支援者の避難誘導を行ったかどうか (SA, N=139)



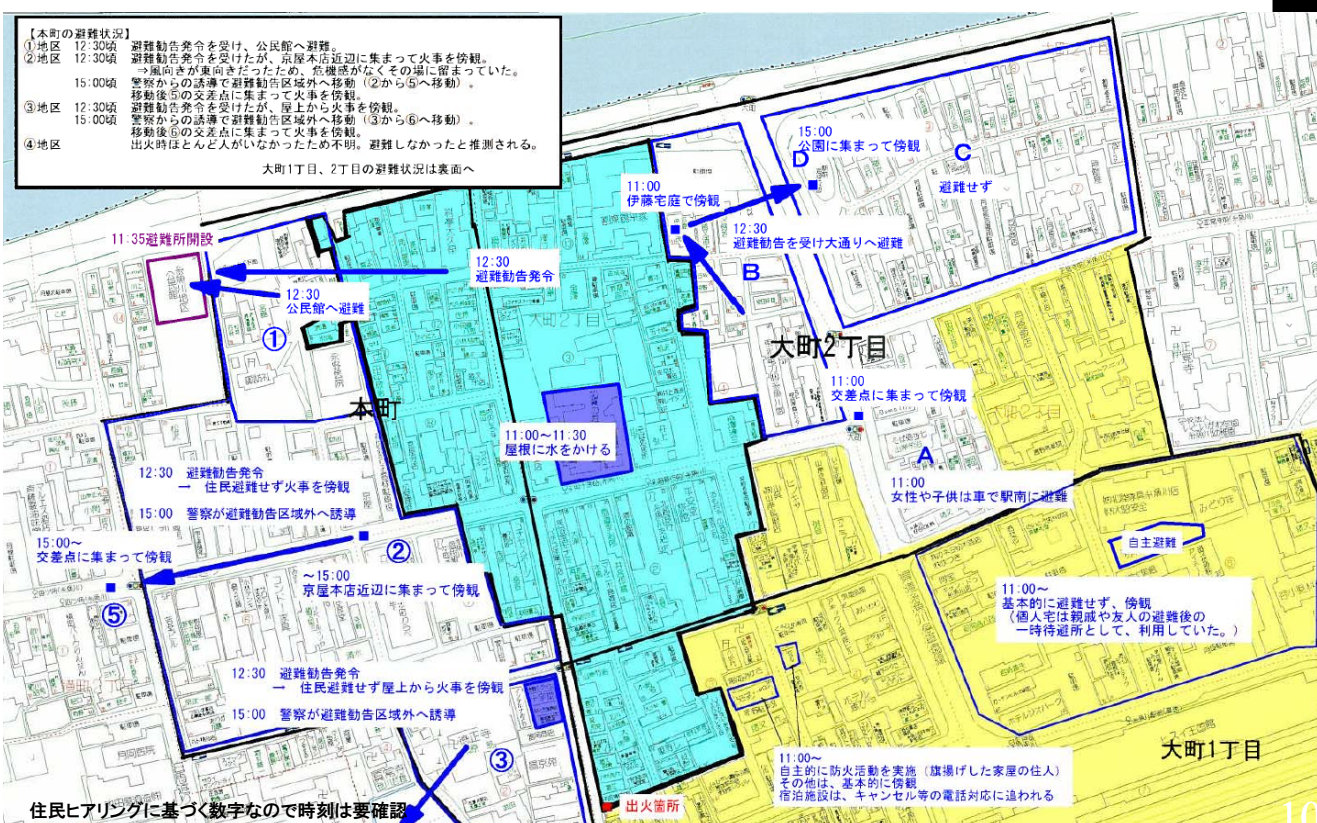
糸魚川大火における避難行動調査(速報) ⑦

□ 調査で分かったこと(延焼に関する自由回答)



糸魚川大火における避難行動調査(速報) ⑧

□ 調査で分かったこと(避難に関する自由回答)



糸魚川大火における避難行動調査(速報) ⑨

調査で分かったこと(避難に関する自由回答)

